

梅窓院通信

No.137

2025/06/01

青山



平安時代より歴史のある郡上おどり。

住職挨拶

梅窓院第二十五世

中島 真成

今年、急に暖かくなり慌てて咲いた東京の桜は、満開直後の思いもよらぬ寒さに驚いたに違いありません。ですが、天候不順のせい、逆に例年より長い間、桜を楽しめる春になりました。

さて、梅窓院の建て替えからも二十二年が経ちますが、建て替え前は境内に桜木が多く、お墓参りとともに桜花を愛でられたお檀家さんも多かったことと思います。

今は墓地の奥の大きな桜が目を引きますが、その手前、東屋の西側に立つ祐天桜も大きくなり、見事な花を咲かせました。この桜は八年前祐天上人の三百回忌に寄せて祐天寺の巖谷勝正住職から寄贈された祐天の名が付く桜です。

宅配便で送られてきた時は、一メートル余の苗木でしたが、桜は成長が早く、今は十メートルに届かんとする立派な桜となり、見事な花を咲かせました。これからも皆さんを楽しませてくれることでしょう。巖谷住職には改めて感謝したいものです。

その桜満開の四月初旬、浄土宗大本山増上寺の御忌に当院法務部の瀧沢孝彦上人が随喜いたしました。御忌とは浄土宗を開かれた法然上人のお徳を讃える法要で、増上寺最大行事です。その七日には埼玉県上尾市の相頓寺の和氣昭祐住職が日中法要の唱導師を勤められ、同じ埼玉県北葛飾郡杉戸町にある倉常寺の住職として瀧沢上人が随喜した、という訳です。

実はこの倉常寺の前住職は私で、前々住職が私の父の中島真哉、その前が祖父の中島真孝と、中島家が三代にわたり守ってきたお寺なのです。というのも、祖父である中島真孝は埼玉県春日部で生まれ出家、杉戸にある倉常寺の小僧となり、後に住職になっているのです。以来中島家が三代法灯を継ぎ、現在は瀧沢上人が住職を務めているのです。新たに檀家、信徒になっていただいた皆様にお伝えさせていただきます。

最後になりますが、この六月の念法会から梅窓院檀信徒部部長の津村祥徳上人のお兄さまで、以前、梅窓院にお勤めいただいた津村侑弥上人に法話をさせていただきます。懐かしいと思われる方もいらっしゃるでしょう。どうぞ、お気軽にお足をお運びください。



法話 仏教歳時風物詩 (69)

夏安居と僧自恣日

新宿区 香蓮寺住職

勝崎 裕彦

陰 暦では、四月、五月、六月の三か月が夏であり、「夏九十日」という。この夏季九十日を十日間の旬日で記せば九夏となり、初夏、仲夏、晩夏に三分すれば三夏となる。

ところで仏教の行事暦で見ると、陰暦四月十六日から七月十五日までの三か月が安居・夏安居の修行期間である。安居とはインド以来、元来が雨季の修行のことで、一定の住処に止まって外出を禁じ、読経・学習や瞑想・反省に専心精進することである。夏経・夏書・夏行・夏勤・夏籠などと別称され、雨季のことでもあって雨安居ともいう。ちょうど日本でも梅雨時に当たり、俳諧では雨安居・梅雨安居などと五文字の季語ともしている。

この安居期間を一夏と記し、「一夏九十日・二夏九旬とも称し、さらに夏百日・百日の行と大きく捉えることもある。安居に入ること、つまり夏の始めを結夏・結制・夏入といい、九十日間を三分して前安居・中安居・後安居と次第して修行修養を重ねて行くのである。安居の終了は夏の終わりといい、夏を解く・解夏とも称される。

この安居の終了日が七月十五日であり、僧自恣日と称されている。修行僧たちが安居九十日の修行を無事に終えて自恣を行なう日という意味である。自恣とは、修行僧たちが自分の犯した罪や誤りを懺悔反省し合って、

お互いに許しを乞うことである。

かくして、西晋竺法護訳『孟蘭盆經』において、目連尊者が仏の言葉に導かれながら亡き母を追慕し孝養を捧げるために、この僧自恣日の七月十五日に修行者たちに供養をしたと説かれる教説によつて、孟蘭盆会の行事、お盆の信仰習俗がはじまったことはすでに広く知られていることであらう。

なお安居の三か月は、新暦・陽暦の五月十六日から八月十五日までの九十日間とし、八月十五日を解夏結制の日として捉える、いわゆる月遅れ盆の慣習もまた多くの地域地方で行なわれていることである。

今回は安居の秀句を拾いながら、七月十五日・僧自恣日のお盆供養へと心を寄せて行きたいと思う。

夏籠や仏刻まむ志 (子規)

夏行とも又た、日々の日課とも

蓮池を前に夏書の机かな (虚子)

まつさをな雨が降るなり雨安居 (五城)

雲ふかく結夏の花の供養かな (蛇笏)

(左右)

明治三十三年、正岡子規数え年三十四歳の時のこの句。病床の日が続く中で鋭い識見をもつて、やがてなにもにも屈しないような大きな心を持して行く子規の一つの悟りを示している

ようなこの句、私の好きな句である。

子規門下第一の上席である高浜虚子のこの句。師と異なり、八十五歳の長寿を全うして、悠々たる境遇をもつて近代俳句を大成した人のこの句、おだやかな落ち着きが、何事にも動じない厳としたものをにじませている。

数藤五城は東京帝大数学科を卒業し、第一高等学校教授であった人。病床の子規の教えを受けて、この句もその人となりの真摯なさまがよく理解される。また藤後左右は京都帝大医学部を卒業し、「京大俳句」で活躍した人。「まつさをな雨」と捉えた視点が鋭く、清澄である。

飯田蛇笏の句は『山廬集』中、昭和四年の作。やはり「雲ふかく」の初五がよく効いていて、山梨県、甲斐の山並みもはるかに望まれるようでもある。

さてここまで書いてきて、俳句というにはいささかとおおこがましいが、私自身の作句を記して、六月の梅雨時分を無事に過ごして迎えることができたと七月盆……、お盆のころを深く深く受けとめながら、今は亡き精霊へ向けて合掌低頭して、南無阿弥陀仏と称え合いたい。

草も木も静かな修行梅雨安居
母慕い母なつかしき僧自恣日

(裕彦)

(大正大学名誉教授)

三月・四月の行事報告



春彼岸法要



立川小談志師匠の寄席には多くの方にご来場いただきました！



はなまつり
4月2日(水)～8日(火)

花まつりで飾られる花御堂



増上寺御忌大会
4月7日(月)
詠唱奉納大会



令和七年春彼岸法要
3月20日(木・祝)

郡上八幡ふるさと展は今年も賑わいを見せました。

お盆 七月十三日(日)

孟蘭盆会法要

午前十時三十分～ 祖師堂

- ・場所や内容が変更となる可能性があります。
- ・祖師堂入口はご利用いただけませんので、ご注意ください。
- ・会場内の空調は微調整が難しいため、ご自身で温度調整できる服装でご来寺ください。

お棚経

7月13日(日)～15日(火)

お棚経については4・5面「お盆について」をご覧ください。また、不明な点がありましたら梅窓院僧侶までご相談ください。

孟蘭盆会 塔婆・回向お申込み方法とお知らせ

◆お申込み方法

塔婆回向 1 本	10,000円
御回向料 1 霊	5,000円

同封のハガキにご記入の上、7月1日(火)必着でお申込みください。

当日の法要にご参加される方は、ご出席人数も合わせてご記入ください。

ハガキの書き方は同封の「書き方例」をご参照ください。

◆お支払い方法

塔婆回向料は、同封の振込用紙で郵便局にてお支払いいただくか、受付までお持ちください。

銀行・コンビニでのお支払いはできません。

また、払込取扱票記載の口座番号00130-4-93033はお支払い金額ではございませんので、ご注意ください。

◆お塔婆のお渡し

法要終了後にお渡しいたします。ご欠席の場合は後日、僧侶にて建てさせていただきます。

ご不明な点は梅窓院受付までお問い合わせください。

お盆会によせて

地球の温暖化で益々酷暑になっています。七月の孟蘭盆会の季節となりました。

子どもの頃、祖父母に言われ、割り箸などで曲がったキユウリを馬、丸いナスを牛に見立てて作り、桔梗など盆花を山に取りに行き、ご仏壇(精霊棚)に飾ったことを思い出します。

「孟蘭盆会」は、一般には、「お盆」と言われ、毎年七月十三日から十五日(地域によっては八月十三日から十五日)旧盆)までの三日間、ご仏壇(精霊棚)にご先祖様をまつり、その冥福を祈る行事です。

その由来は「孟蘭盆経」というお経によっています。梵語(古代インドの言葉)ウランバナの音訳、「逆さまに吊されるような苦しみ」を除くという謂われの行事です。

そのお経によりますと、お釈迦様の十大弟子の一人である「神通力第一」といわれる目連様が、ある日、亡くなった自分の母親の様子を、神通力を使って見てみると、なんと母親は餓鬼の世界に落ちて、苦しみにあえいでいました。びっくりした目連様は、お釈迦様のところへとんで行き、どうしたらよいかを相談しました。するとお釈迦様は、「七月十五日に、九十日間の雨安居の修行を終えた僧たちが集まるので、その人たちにごちそうをして、ご供養しなさい」とおっしゃり、そのとおりにすると、目連様の母親は餓鬼の苦しみから救われました。

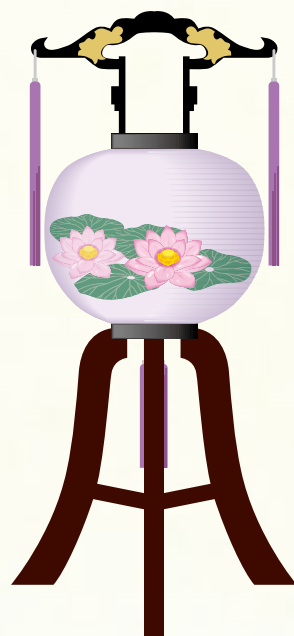
お釈迦様はさらに「同じように、いろいろな飲食を器にもって、仏や僧や大勢の人たちに振舞い供養すれば、その功德によって、多くのご先祖が苦しみから救われ、今生きている人も幸福を得ることができるよう」とお説きになりました。

これがお盆の行事の始まりです。ご家族そろってお墓参りしてお迎えし、ご仏壇にてご供養していただければ幸いです。

(法務部 関崎益男 合掌)

お盆の行事と迎え方

盂蘭盆会、お棚経、そして精霊棚



夏のお盆はご存じのように
ご先祖様がご自宅に戻って来
られる大切な行事です。

今特集では恒例のお盆行事
の案内チラシを『青山』の特集
としてお届けします。どうぞ
ご参考にしていただき、ご家
族とご先祖様も一緒に楽し
いお盆をお過ごしください。

お盆は、「逆さに吊るされた苦し
み」を意味するインドのサンスク
リット語、ウランバーナが語源で、
お釈迦様が地獄に落ちた人を助
けたことを由来とし（二、三面参
照）、その作法と日本の先祖崇拜
とが融合した慣習です。そしてお
盆は地方色も豊かで、八月盆に東
京の七月盆が加わったり、大文字
焼きや精霊流し、盆踊りといった
地域色豊かな行事が各地で催さ
れます。そして、ご家庭にご先祖様
を迎えるための迎え火や精霊棚の
飾り方やお供えも様々です。

ですが、共通しているのは、今
の自分たちがいるのはご先祖様
のおかげ、そのご先祖様を精一杯
おもてなししましょう、という感
謝の気持ちです。そして、その気
持を伝えるために、お盆の期間
には各ご家庭で精霊棚をお作り
し、故人の好きな物をお供えし、
お経をあげ、また盂蘭盆会に参
列するのです。

【梅窓院の盂蘭盆会】

梅窓院では毎年、七月盆に入
る日に盂蘭盆会の法要を厳修し
ています。ちようど今年は日曜日
に当たりますので、ご家族でご
参拝ください。皆様のご先祖様
のご回向をいたします。そして
法要後には、お墓にいらっしゃる
ご先祖様とご一緒にお家にお帰
りになれるのはいかがでしよ
う。きつとご先祖様もお喜びにな
るでしょう。

盂蘭盆会

祖師堂にて

七月十三日(日) 午前十時半より

ご回向 申し込み制

※同封のハガキにご先祖様のお戒名をご記入
の上、七月二日(火)必着でお申し込みくださ
い。

※ご回向料は同封の振り込み用紙で郵便局に
てお支払いいただくか、受付までご持参くだ
さい。なお銀行、コンビニでのお支払いはでき
ません。

【梅窓院のお棚経】

お棚経とは梅窓院のお坊さん
がお盆の期間中に皆様のご家庭
に伺い、精霊棚、または仏壇の前
で特別なお経をあげ、ご先祖様
をご供養させていただくこと
です。

また、故人様の四十九日の忌
明け後、初めて迎えるお盆を特
別に「新盆」(読み方は、あらば

ん、しんぼん、にいぼんと様々)、
「初盆」と呼び、故人様の初めて
のお盆として手厚くご供養いた
します。
ご希望の日には伺いますので、で
きれば、ご家族全員にお集まり
いただき、ご一緒に手を合わせ、
お参りしお念仏をお称えいたし
ましょう。

お棚経

たなぎよう

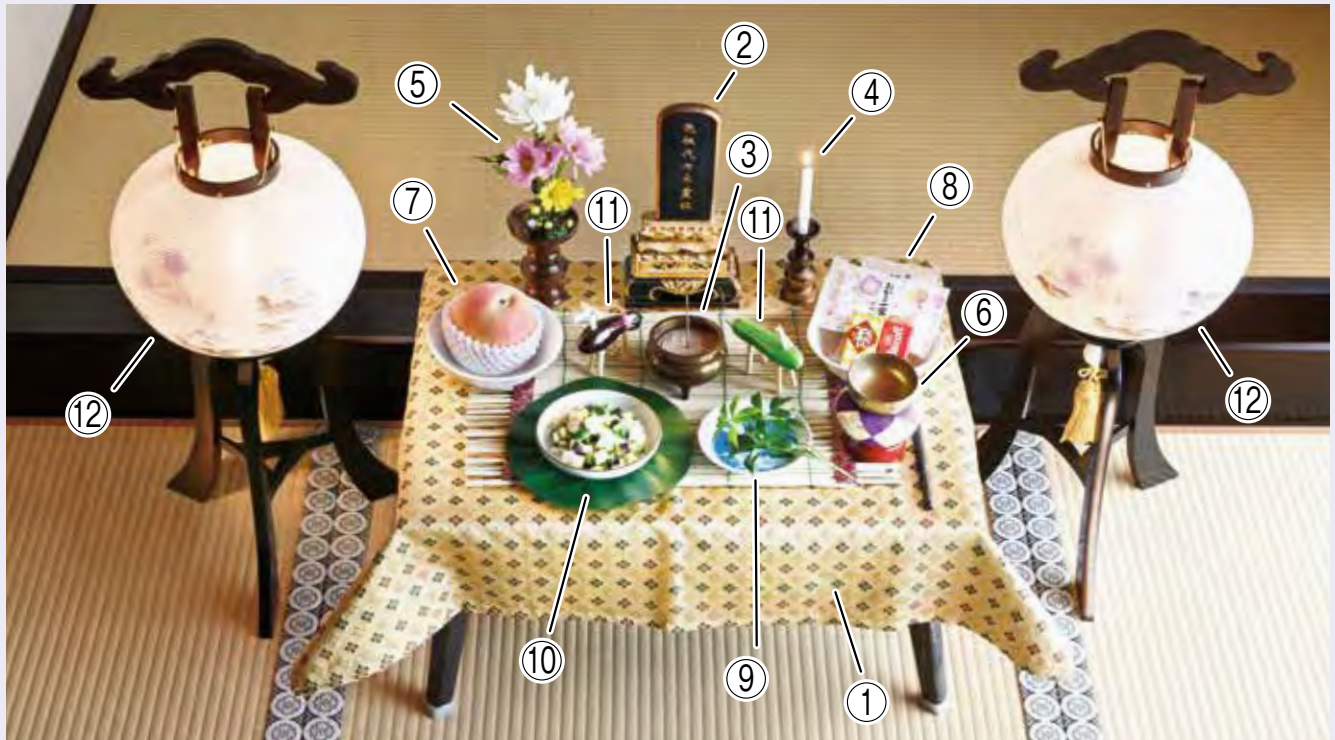
檀信徒様のご自宅

七月十三日(日)から十五日(火)

お棚経 申し込み制



※六月十四日(土)までに受付経由で梅窓院法
務部までお申し込みください。



写真の説明

- ① 仏壇の前に小机を出し、真菰のござ、または敷物を敷く。写真は両方。
- ② 真ん中奥に位牌（何基でも構いませんし過去帳でも）を安置する。
- ③ 位牌の前に香炉をおき、お線香をあげる。
- ④ ろうそくを向かって右に立てる。
- ⑤ 花を向かって左に供える。
- ⑥ 右手前におりんをおく。
- ⑦ 季節の野菜や果物（ご先祖様への報恩感謝とともに豊作の報告）を向かって左に供える。
- ⑧ お供物、食事、ご飯、お菓子など、故人様の好きだった物を向かって右に供える。食事の時はお箸も一緒に並べましょう。
- ⑨ 水の入った皿などの上にミソハギ（または櫨）をのせる。写真は櫨。
- ⑩ 蓮の葉やお皿の上に、水の子（さいの目に刻んだ茄子や胡瓜、洗い米などを混ぜたもの）をのせる。写真は蓮の葉の上の皿に茄子と胡瓜をのせています。
- ⑪ ご先祖様が乗って来られる馬（胡瓜に割り箸を刺して馬に見立てる）とご先祖様が乗って帰られる牛（茄子に割り箸を刺して牛に見立てる）を用意する。写真はプラスチック製の馬と牛です。
- ⑫ 左右に提灯を立てます。

※お棚経に伺ったお坊さんが、ミソハギを水に付けての作法で、供物の邪気を払い、水の子を増やし、ご先祖様として全ての精霊や餓鬼へ施します。

（撮影協力 永楽堂）

【精霊棚の作り方】

お盆では掃除した仏壇の前に精霊棚を作ります。そして霊供膳と呼ぶ食事を供えます。お迎えする故人様の好物だった食べ物が良いでしょう。ちゃんとした食事でなく、果物やお菓子でも構いません。好きだった物、ちゃんと覚えていますよ、とお伝えしましょう。

精霊棚の飾り方は写真をご覧ください。説明文をお読みください。あくまで一例です。ご家庭に伝わる飾り方やお供え、お迎え方があれば、それが一番のおもてなしになります。

お盆飾りは仏具屋さんやスーパーマーケットなどにも並んでいる盆飾りセットで十分です。

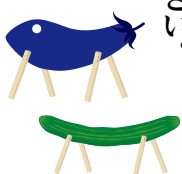
また、精霊棚が作れない時は、仏壇をちよつと飾る、または、いつもよりちよつと多いお供えをする、といったことで、ご先祖様に感謝の気持ち伝わりますので、それで構いません。ですので、精霊棚が作れないからとお棚経をご遠慮されることはありません。いつもの仏壇の前でお経をあげさせていただきます。

本特集ではお盆に関するお知らせをお届けしましたが、盂蘭盆会法要、お棚経、精霊棚や、その他お盆に関わることでのご不明なことや、お問い合わせ、お棚経のお申し込みは、受付を通して梅窓院法務部へご連絡ください。

受付電話番号

〇三―三四〇四―八四四七

※お棚経の申し込みもこちらへ



梅窓院を囲む人々

歌舞伎俳優

中村獅童(なかむらしどう)さん

歌舞伎の舞台はもちろん、TVドラマ、映画、CM と大活躍されている中村獅童さん。実は獅童さんのご家族は青山とは大変ご縁が深く、梅窓院にお墓があります。そのご縁の話を伺いました。

◆本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。こちらは歌舞伎座内にある稽古場でしょうか。

中村獅童(以下 獅童) はい、稽古場ですが、ここで取材を受けることもあります。

◆そうですか、広いですね。では、獅童さんが梅窓院の檀家になられた理由からお聞かせください。

獅童 まず、本家のお墓が青山霊園にあること。そして歌舞伎役者を辞めた父の会社も青山にあり、たまに父と二人でここ青山で食事をしていました。

◆そうなのですか。どんな店で食事されたのですか。

獅童 中華料理店が多かったですね。今も年回法要の後に利用しています。それに買い物も青山ですることが多いです。

◆青山はお父様、そして獅童さんご自身にも馴染み深い街なのですね。

獅童 ええ、それに母。母はとてもエネルギッシュで前向きな明るい人で、僕のファンクラブの皆さんにも獅童ママと呼ばれ、それは人気があったのですが、その母が、宇野千代さんのお墓がある、と梅窓院の墓苑を大変気に入っていたことも大きな理由ですね。

◆家族をあげて青山、そして梅窓院最良とは嬉しいです。お墓参りには来られますか。

獅童 はい、舞台が決まったり、やりたいことがうまくいった時、それに初日前や無事舞台が終わった時に父や母に報告しに来ます。妻も一緒に来て、お墓掃除をしてくれますし、僕の舞台の成功を願ってくれています。

プロフィール

中村 獅童(なかむらしどう) 歌舞伎俳優
1972年9月14日生まれ。8歳で歌舞伎座の「妹背山婦女庭訓」で初舞台を踏み、2代目中村獅童を襲名した。歌舞伎俳優として活躍する傍ら2002年、映画「ピンポン」で日本アカデミー賞など各5冠を受賞以降、多数の映画やドラマにも出演。古典から新作まで様々な役に挑戦し続けている。

公演情報

歌舞伎『刀剣乱舞』

新橋演舞場

7月5日～27日

博多座

8月5日～11日

南座

8月15日～26日

チケットに関する

お問い合わせ

0570-000-489

(チケットホン松竹)

◆歌舞伎では演目によっては縁のあるお寺の墓参りをすると聞きますが、それは伝統的なものなのでしょうか。

獅童 そうですね。「忠臣蔵」だと泉岳寺ですね。「忠臣蔵」は実際の事件をエンタメという見せ物にするということですから、その事件で本当に亡くなった方々に出演者全員が必ず墓前で手を合わせますね。

◆なるほど。成功祈願をされているんですね。

獅童 また、歌舞伎というのは何代にもわたって多くの役者さんが一つの役を大事に育てていますから、その役を演じさせていただく時、僕はそうした先輩達に心を寄せ、どうぞ見守ってください、と手を合わせます。それが僕のルーティンです。

◆とても素敵ですね。

獅童 そうした気持ちになるのは、やはり歌舞伎という歴史ある伝統芸能の世界ならではの事です。現代劇にも出演しますが、そうした時は手を合わせる相手がいないので。

◆そうですね。

獅童 最後に母の夢をお伝えしておきます。母は本当に梅窓院さんが好きで、梅窓院の祖師堂で獅童が新作歌舞伎を演じること、を夢見ていました。

◆えっ、本当ですか。ぜひ、お母様の夢、叶えてあげてください。他のお檀家さんや信徒さんが大喜びします。本日は大変ありがとうございました。



たたずむ姿も絵になる獅童さんと中島住職のツーショット。

春の特効薬、甘夏

食は命

武鈴子
食養研究家

第九十九回

友人から毎年「農薬もいっさい使わない“野生児”を送ります。」…と、今年もご自身の山で育った“甘夏”が蜜柑箱一杯送られてきました。さっそくいただきましたが、夏ミカンなのに年々甘味成分が増しているようで、今年は特に甘くジューシーでより美味しく感じられました。いま私の体が夏みかんを一番喜んでいるようで、まるで餓鬼のように毎日1個ずつむしゃぶりついています。

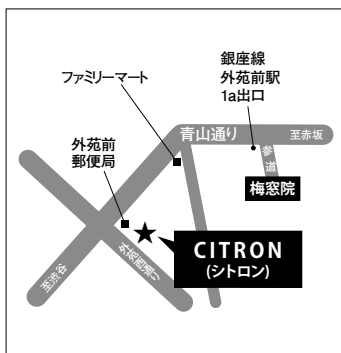
実は先月、真夜中に突然左すねの激痛に襲われ、救急車で病院に運ばれ、そのまま1カ月の入院生活となりました。あまりにも突然のことで、ましてや入院生活になるなど初めての経験で、夢のまた夢…。

病院では、薬も何も出ず、ただ寝ているだけでしたがヒザのためにはそれがいちばんらしく、その後は痛みも出ず1カ月後の退院となりました。

友人の甘夏は、今年は特に甘味が強く感じられましたが、突然甘味が増したとは考えられず、これは私の体調の変化かと思い、体が相当疲れているナ!と判断しました。中国の“五行理論”では「酸味」は五臓中の肝臓の働きを補い、そして春の気候は肝と深い係わりがあるといわれ、いま私の体はヒザだけでなく、酸味を好む肝臓さんも疲れているのかと、夏ミカンに教えられた次第です。

夏ミカンなど酸味の効用は、体を引き締めて、出し流らせる。汗腺を収斂して、発汗を抑制する。下痢や尿の出過ぎを抑える。筋肉を引き締める…等々の効能があります。

甘夏を毎日1個の割合でいただいています。どんな手当よりも、体が甘夏を喜んでいるようです。春の体の不調には、酸味が何よりなのですね。



営業時間

月～金 8:00～21:00(L.O.20:30)

土・日 8:00～19:00(L.O.18:30)

定休日/なし

※最新情報は店舗まで直接お問い合わせください。

席数/42席

住所/東京都港区南青山2-27-21

南青山227 1F・2F

TEL/03-6447-2556



陽の光が差し込むカウンター席で、優雅なひと時を。

BAR A SALADES PARISIEN
CITRON

青山散歩道

シトロン
CITRON

今回は梅窓院より徒歩5分のファストカジュアルレストラン「CITRON」をご紹介します。

以前から日本に住んでいたフランス人オーナーが、2015年にこの青山の地にベジタリアン料理店の先駆けとしてお店をオープンしました。ヘルシーでバランスの取れた料理を楽しむことができます。ボリューミーで彩り豊かな有機野菜を堪能できるオーダーメイドサラダはもちろん、グラタンやサンドイッチなど、豊富なメニューを取り揃えています。その中でも看板メニューはキッシュとレモンタルト。一番人気のチーズキッシュはコクがありつつも、口当たりが軽くまろやかな味わいです。

モーニングやディナー、特別な日の貸し切り利用に加え、ワンちゃんも入店可能なので、様々なシーンに応えてくれます。

壁にはアート作品が飾られており、フレンチテイストなインテリアが満載の内装です。海外の風を感じるあたたかな店内で、こだわりの味をぜひお楽しみください。



扉を開けると、ショーウィンドウに並べられた多種多様なメニューがあなたをお出迎え。

青山俳壇

選者「ウエッパ俳句通信」編集長

大崎 紀夫

◎特選

○塩味も粋なはからい桜餅

◎入選

○満開の桜写メする朝一番

○空あおく夜風に揺るる桜かな

○花冷えの川のせせらぎ届きけり

○不安な背を押されるような春一番

○花粉来る季の訪れ複雑や

○初音きく厨房の窓ぞつと開け

○寝床にも伊予柑むきし手のにほひ

○青空に飛行機の音鳥帰る

○今年また見ることできて桜咲く

◎選者詠

○差し潮がやつてきてゐる萩若葉

○ワンポイントレッスン

前にも書いたことですが、一句の中に季語が二つ以上ある(季重なり)の句をわたしは認めています。しかし、初心のうちはやめた方がいいといっています。ひとつの季語でしっかり季節感を出した方がいいと考えるからです。季重なりを避けるには、やはり歳時記をよく見ることです。この言葉はもしかしたら季語かもしれない、と思ったらすぐに歳時記を開いてください。

大崎 紀夫

投句募集

今回は「夏の季語」でご自由にお詠みください。7月1日(火)締切り、9月発送の『秋彼岸号』にて発表いたします。郵送・FAX・メールのいずれかの方法で、ご応募ください。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承ください。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係
FAX:03-3404-8436
メール:bunkamura@baisouin.or.jp

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡ください。

ウエッパ編集室
電話03-5368-1870

梅窓院

詠唱会

のお知らせ



開催日 毎月第2・第4土曜日

時 間 14:00~16:00

梅窓院では、詠唱のお稽古を行っております。
日常とは異なる、お寺という特別な空間で、お勤め・詠歌・和讃の言葉を味わいながら、ゆったりとした旋律に包まれて、楽しく心豊かなひとときをお過ごしいただけます。
お知り合いの方をお誘いいただいてのご参加も歓迎しております。
また、随時見学も受け付けております。お気軽にお越しください。

行事予定

第89回 念仏と法話の会

6月5日(木)

13時(受付開始 12時30分) 観音堂

法話:お寺が地域とできること

講師:秋田県横手市 九品寺

津村侑弥上人

※参加費無料です。お申込はメール・お電話・FAX・梅窓院受付にて承っております。詳しくは梅窓院ホームページをご覧ください。

お申込みはこちらから。



念法会申込フォーム▶

開山忌法要

6月14日(土)

法要 14時~ 本堂

盂蘭盆会法要

7月13日(日)

法要 10時30分 祖師堂

※詳細は3、4、5面をご覧ください。

梅窓院のお墓とペット供養の窓口

ジャパンエキスパートシステム 墓苑事業部からのお知らせ

先日、梅窓院から頂いたお線香が長いので、「半分に折って使っています。なぜ長いのですか?」というお問い合わせがございました。以前ご住職から伺ったと記憶しておりますが、昔のお通夜の際には「寝ずの番」というものがあり、仏様にお線香を絶やすことの無いよう、一晩中交代で起きていたそうで、お線香が長ければちょっとでも休めるだろう、という心配りから長いお線香を作ったと伺いました。

ということで、長いお線香をお葬式の際に梅窓院よりお渡ししているのです。いつ頃から長いお線香を作ったのかは不明ですが、当時のご住職が色々考えられてご用意されたのでしょうね。歴史ある梅窓院ならではの特別なお線香なのです。ちなみに、一周忌などの回忌のご法要の際には通常のお線香をお渡ししております。

些細なことでもちょっと遡ると当時の梅窓院の先達の思いが見えて参ります。「『寝ずの番』を知っている職員はいるだろうか?」とちょっと不安になりました。これを読んでおられる皆様はご存じのはずですね……。

(墓苑事業部 森)

お檀家さんに伺いました

令和7年 春彼岸会にて

『皆楽しく過ごしております』

ご挨拶はもちろんですが、亡くなった父の誕生日が3月20日でもあり、春彼岸会では落語も行われているので、落語が好きな私にとっても良い機会だと思います。普段のお花を供えてご先祖様にご挨拶する墓参りとは違って、少し楽しい墓参りになりました。

梅窓院を知ったきっかけは、妹の嫁いだ先が代々梅窓院の檀家だったことです。そのご縁もあり、妹の実家である中馬家も近くにいられたらと思い、檀家となりました。私たちをはじめ、ご先祖様は間違いなく一緒に楽しんでいると感じております。どうか元気で見守っててくださいと願っております。

発行 / 梅窓院

発行日 / 令和7年6月1日

発行人 / 中島 真成

編集 / 梅窓院広報部

住所 / 〒107-0062

東京都港区南青山2-26-38

電話 / 03-3404-8447

FAX / 03-3404-8107

ホームページ / <https://www.baisouin.or.jp/>

E-Mail / jodo@baisouin.or.jp

題字 / 中村康隆元浄土門主

総本山知恩院第八十六世門跡